

難易度の高い再手術、高齢者、すべての患者さんを受け入れる。



いつも患者さんの身になって考える

by 川崎医科大学附属病院

医療最前線 心臓血管外科

24時間365日体制で治療にあたる当科。最前線では、外科と内科が協力あって、治療や手術のクオリティを高める「ハートチーム」のコンセプトを徹底。種本教授のリーダーシップのもと、15年前から実践している。



大学時代はボート部に所属。1979年の関西選手権優勝、インカレでは準決勝2位、ユニバーシアード世界大会へも推薦されたそう。最近は、週1回スポーツジムで汗を流すのが日課。「ベンチプレスは今でも70kgを上げますよ」。会う人を一目で魅了する人懐っこい笑顔が印象的だ。

種本 和雄 教授

Kazuo Tanemoto

■認定医・専門医・指導医
日本外科学会専門医・認定医・指導医、日本胸部外科学会認定医・指導医、心臓血管外科修練指導者、ICD/CRT治療資格者

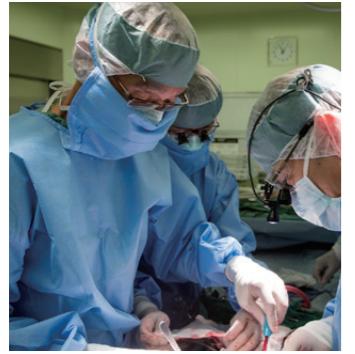
■専門分野
弁膜症外科、小切開手術(MICS)、冠動脈外科、大動脈外科

現在、心臓血管外科専門医認定機構の要職である総務幹事も務める種本教授。「この分野で専門医を育てるための研修システムを確立するのが私の使命。そして私が一〇年で得した技術を三年で若い人に伝えるのが私の存在価値」と言い切る。その言葉は医師としての確かなプライドと使命感があふれている。



10年後の患者さんをイメージすること

by 川崎医科大学附属病院



杭ノ瀬教授は1998年、いち早く低侵襲心臓手術に取り組み始め、以後3D内視鏡下心臓手術や胸骨を切らない大動脈弁置換手術など、心臓手術の新しい可能性に挑み続けている。



「患者さんの救命とQOLの改善」のため日々、専門性の高い医療に取り組む心臓血管外科の精鋭たち。種本教授と一緒に先進のチーム医療を担っている。

多忙ながら毎朝10kmのランニングを欠かさない杭ノ瀬教授。「40歳を機に始めました(現在12年間継続)。吉備路マラソンではフルマラソン3時間10分。ちなみに自己最高は2時間53分10秒です」というサブスリー・ランナー。「ラン仲間がたくさんできました」とうれしそうに微笑む姿に人柄がじみ出る。

杭ノ瀬 昌彦 教授

Masahiko Kuino

■認定医・専門医・指導医
心臓血管外科専門医、日本循環器学会専門医、日本外科学会認定医・指導医・専門医、日本胸部外科学会認定医・指導医、心臓血管外科修練指導者、ICD/CRT治療資格者

■専門分野
弁膜症外科、小切開手術(MICS)、冠動脈外科、大動脈外科

「心臓外科治療で重要なのは、構成力です。10年後の患者さんの姿を常にイメージしながら、何がその患者さんにとってベストなのかを考えることが大切」と杭ノ瀬教授。物静かな笑顔のなかに医師としてのゆるぎない向上心が垣間見えた。

お問い合わせ
川崎医科大学附属病院
086-462-1111
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

■2014年10月25日号掲載

本文中の医学情報、写真は掲載当時のものです。認定医・専門医・指導医、専門分野については2014年10月25日現在のものです。